

わたしたちは、信頼と希望と愛の輪で社会をつなぎます

SSKP いずみ

No.
149

2008年6月

社会福祉法人 泉会

法人本部
泉の家 〒157-0076 世田谷区岡本2丁目33番23号
☎03(3417)3451(代) 03(5494)7533
izumi@izumikai.jp
http://izumikai.jp/izumi/

日の出舎 〒190-0182 西多摩郡日の出町平井3030番
☎042(597)1451(代) 042(597)2205
info@hinodesha.org
http://izumikai.jp/hinode/

岡本福祉
作業ホーム 〒157-0076 世田谷区岡本2丁目33番24号
☎03(3415)3366(代) 03(3415)4976
okamoto@izumikai.jp
http://izumikai.jp/okamoto/

岡本ホーム
玉堤分場 〒158-0087 世田谷区玉堤2丁目3番1号
☎03(5707)9431(代) 03(5707)9433
tamatumi@izumikai.jp
http://izumikai.jp/tamatumi/

一九七七年十二月三日第三種郵便物認可(毎月一、二、三、五、六、七の日十八回発行)
二〇〇八年五月十一日発行(SSKP増刊通巻二八一三号)



「初めての紙すき上手く出来たよ」(玉堤分場)

本年の聖句
何を飲むか、何を着るか、などといって心配するのはやめなさい。・・・あなたがたの天の父は、それがみなあなたに必要であることを知っておられます。だから、神の国とその義とをまず求めなさい。そうすれば、それに加えて、これらのものはすべて与えられます。だから、あすのための心配は無用です。あすのことはあすが心配します。労苦はその日その日に、十分あります。

(マタイの福音書 6章31〜33節)

代表的なのは、弥生時代佐賀の吉野ヶ里遺跡・縄文では青森の三内丸山遺跡があり、多くの人に感動と夢を与えてくれます。世田谷には古代より生活した貴重な遺跡が、320カ所以上もあり、旧石器・縄文・弥生・古墳・奈良・平安時代の遺跡が都内で最も多い地域です。泉の家の土地は、埋蔵文化財の保護地域・堂ヶ谷遺跡(古墳時代)に指定されております。

二、三千年前に文字も持たない古代時代を知るためには、遺跡より古代の生活を読み取り解明することが求められます。泉の家が44年前に建てられた時代は、第二次大戦後の苦しい厳しい社会背景があり、建物の土台設置には、学術的に何の規制も無い時代でした。古代の生活を知るために、重大な関心が寄せられます。大昔に古代人が生活していた場所・文化財が埋蔵している地域に福祉の施設が生まれ、今日まで運営出来て再び事業展開が出来ることに、大きな喜びと誇りを感じます。発掘の期待と同時に発掘調査期間の建設中断による工期の遅れが生じないことと発掘費用が最小限に納まるように祈るのみです。泉の家は本年10月に解体予定です。来年秋には期待に胸を膨らませて新しい器と事業が始まります。皆様の一層のご支援を心よりお願い申し上げます。



理事長 橋向敏治

何が出てくるのか、期待に胸を膨らませることの一つに古代の発掘調査があります。



泉の家

皆の力を合わせて

44年間、皆様から支えられ、この地でこの建物と共に過ごしてきました。感謝の気持ちでいっぱいです。

今年度は、【第一期】4月～7月末、現在の旧体系。

【第二期】8月～3月末、新体系の計画をしました。

入所施設から通所事業へと、障害者自立支援法の理念に沿った事業展開をいたします。

【支援目標】

「つなげよう、つながろう。」
～地域と人と未来と～

【重要実施事項】

- 一、泉の家事業展開の計画的実施
 - 二、建築・事業展開に係ること
 - 三、(入所事業)辞退届け、新法事業実施届け、国庫補助・建築関係等)
 - 三、泉の家感謝祭・解体実施
 - 四、就労継続支援B型への移行
 - 五、在宅支援の強化
 - 六、地域交流事業への参加・企画
 - 七、生産活動での新製品開発
- 以上を計画的に実施いたします。事業展開の中で、経営面でも厳しい状況です。収支の安定を図り委託業務内容の見直しなど努力しながら、法人全体の力や友の会・皆様方からの支援をいただき、求められる施設作りを目指します。

日の出舎

泉会基本方針の確認

新制度と老朽化による建替え或いは改築に向け、円滑な移行を目指すべく、利用者や関係者の希望を優先し、泉会基本方針を遵守しつつ新制度を上手く利用した計画を策定する準備期間とする為、経営基盤の安定化と個別支援計画の充実を図ります。

総務は新会計基準移行による業務を学習しつつ、効率化・簡素化の道を探り、新事業の円滑な移行が出来るよう準備します。

支援は、利用者の疾病や障がい
の重度化が深刻化している現状が

あり、基本的な生活習慣と日常生活動作維持に向けた支援の見直しをします。また、移行に向けた準備期間として、個々の課題に応じた生活活動プログラムの導入の道を探ります。作業では、日課の変更による売上げ減少が見込まれますが、安全面や確実性を重視した作業活動の展開を図ります。

今年もご協力、ご支援願います。



法人本部

念願の成就を願って!

「障害者自立支援法」混乱の中で、障がい者福祉の行き先不透明ではありますが、法人が事業を展開する地域で、制度の枠にとらわれず使命・役割を果たします。

「泉の家」建て替え、世田谷障がい者福祉の推進を、区及び都の理解と支援を受け、国庫補助による施設整備を図ります。

就労移行・就労継続支援B型への移行に伴い、就労会計基準による会計処理の適正を図ります。

「泉の家」に引き続いて「日の出舎」の施設整備は、地域性に基づいた障がい者福祉の推進を検討し、計画の具体化をめざします。

法人経営の効率、業務の統合化を推進します。

社会福祉法人泉会は以下の経営理念、基本方針に基づき今年度も事業を進めていきます。

経営理念 私たちは信頼と希望と愛の輪で社会をつなぎます。

基本方針

- 一、わたしたちは、キリスト教の精神に基づいて法人の事業を開拓された先達の心を想い起こし、時代に即したサービスを、利用される方々と共につくり出します。
- 一、わたしたちは、国籍や信条、年齢、性別、障がいの程度にかかわらず、利用される方々の人権を守り、社会・経済・文化等あらゆる分野で活動する機会を十分得られるように支援します。
- 一、わたしたちは、ノーマライゼーションの理念に基づき利用される方々が、地域社会の中で共生できるように支援します。
- 一、わたしたちは、一人ひとりの多様な個性・可能性に対応し、生きることの喜びや働く意欲を大切にしながら、充実した日々をおくれるように支援します。
- 一、わたしたちは、情報公開を積極的におすすめ、地域に開かれた透明性のある事業経営をめざします。
- 一、わたしたちは、利用される方々と心を合わせ、人間らしく生きることのできる平和な社会実現をめざします。

岡本ホーム

多機能型事業展開をめざして

岡本福祉作業ホーム(本園)・玉堤分場では、就労移行支援、就労継続支援B型、生活介護支援事業を多機能型で行います。

指定管理三年目、本園利用者稼働率を生活介護支援事業85%、継続支援B型95%を目標とします。

取引先から仕事を提供されるように、作業時間を段階的に6時間へ近づけます。需要(社会的要請)に応える品質・量の維持を心がけ、作業工賃の向上をめざします。泉の家建て替え工事の期間、世

玉堤分場

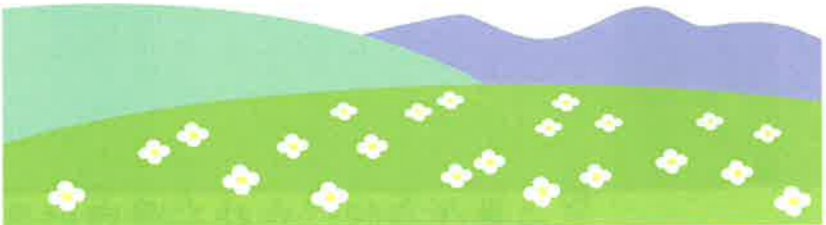
働く気持ちと自立生活への支援

玉堤分場は、今年4月より、岡本ホーム本園と事業所登録が一緒になり、多機能型の施設として就労移行支援事業と就労継続支援B型事業を行うことになりました。

これらの事業は、利用者の自立と社会経済活動への参加を促進するために行なわれます。就労移行

支援事業は、2年間の中で一般就労に必要な実習、適性に合った職場探しなど、必要なサービスを行います。また、就労継続支援B型事業は、就労や生産活動の機会の提供を行い、工賃アップも目標となります。玉堤分場のスタッフ一同は、活動を通して、一人ひとりが達成感を感じ、モチベーションを上げ、安心で安全な生活を送られることを大切にしています。そして、事業目標の「働くことを通してあなたの笑顔に応援します。」

「ニコニコ増計画」に沿って、ニコちゃんクッキーのように、笑顔の絶えない職場にしていきたいと思っております。ご支援ご協力の程よろしく願います。





テラス販売始めました!

分場のクッキーが美味しいことを、もっとたくさんの人に知ってほしい。さて、どうするか。分場の近所の方たちが買いに来てもらえるような取り組みはどうか。一階食堂前に、小さなテラスがあり、そこで試食販売会をしたら、おしやれじゃないかということ、天気の良い日を選んで、始めたのが「テラス販売」です。



美味しいクッキーいかがですか?

九月のまだ残暑が残る日、テラスを出し、のほりを立て、試食



地域の皆さんに好評です!

用のクッキーを持って、「いらっしやいませ〜」。歩道のない道路に面しているので、試食を勧めるにも、タイミングがつかめず、どきどきしながらのスタートでした。

「いつも、いい匂いがしてたけど、クッキーを焼いていたのね」「美味しい」「おやつに」「今度はいつ?」と評判は良く、一回目は二時間で百十個を売りました。利用者も交代で店番をし、直にお客さんの反応を見ることができるので、とても、面白かったという感想が聞かれました。できれば、定例化し、毎月決まった日に販売できるといいなというところになり、テラス販売がスタートしたの



気持ちをこめて作っています。

です。天候に左右されるため、雨や風でできないこともありましたが、販売すれば収入になることと、知名度を上げることにつながることを考え、月一回のペースで続けました。風が強くて試食用のクッキーが飛ばされたり、あまりの寒さに切り上げたり。ですが、接客する利用者たちの楽しそうな表情や、近所の方の励まし、クッキーを通して、地域とのつながりを作ることができたなど、収

入以外にも、たくさん収穫を得ることができました。一番印象的だったのは、クッキーを売るときの利用者の「絶対美味しいから」という自信に満ちた表情と口調です。また、「これだけ売れたよ〜」という達成感をみんなが共有することができました。今年度、分場の事業目標に「ニコニコ増計画」があります。みんなが笑顔になるよう、テラス販売もがんばっていきましょうと張り切っています。

(上原 絹代)



日頃感じていること

息子が岡本に通うようになって6年が経ちます。のどかな環境と、親身になって相談など指導をしてくれる職員の皆様のおかげで、元気に通うことができています。

自立支援法に基づきいろいろな制度が変わり、利用者も家族も安心した生活が送れない状況になってきています。4月からの新事業により、就労移行支援、就労継続支援B型、生活介護支援になるわけですが、今までのゆっくりとした生活から少し緊張した生活になるのではないのでしょうか。

岡本の利用者は力仕事は無理だとしても、パソコンやインターネットで、岡本の自主生産をたくさんPRし、働く喜びを見出してほしいものだと思います。そしてそれが工賃となり、皆に還元されればうれしいことです。

健康面については朝からずっと車椅子生活は疲れるのではないで

しょうか。二階にベッドはあるようですが、可能ならば隅の方にも畳かマット一枚ぐらい置いて体を伸ばして休めるところがあつたらなあと思います。最後に、メタボリックシンドロームがよく聞かれます。利用者の中にも気になる方がいるようですので、ジュースよりお茶のほうがいいよと、ちよつと声かけて頂ければうれしいです。

花の好きな施設長と、元気のいい職員の皆さんと共に、毎日が楽しく過ごせる岡本であつて欲しいと思います。



お母さんと一緒に作品展に行きました。

大作! さかなキラキラ完成!

毎年恒例の岡本ホーム作品展が今年1月にキャロットタワーにて行われました。個性溢れる様々な作品の中で、群を抜いて人目を引いた作品、巨大な魚のオブジェが『さかなキラキラ』です。昨年の5月頃からアートコースに参加されている利用者でこつこつと共同制作した作品です。材料はなんとボトルキャップとプルタブ。ご家庭

や岡本ホームの活動中に飲んだ飲み物のキャップやプルタブを捨てずに、みんなで大きな魚が作れるよう大量に集めました。友達にも協力してもらったとの事で、毎回たくさん持ってきてくださる利用者もいました。きれいに洗われ銀色に塗られたボトルキャップは魚の顔と

の顔と尾びれに、色とりどりに塗られたプルタブは魚のウロコに大



魚の骨組み作りをしています。

変身! 小さなキャップとプルタブが利用者みなさんの協力で体長2メートルにもなる巨大な魚になりました。搬入は車2台で運び、会場まで時間をかけて組み立てました。半年以上の時間をかけて、利用者、職員と力を合わせて制作した『さかなキラキラ』は、私達の夢・希望・未来の象徴。今、大海原へと泳ぎだしました。

(河村 律子)



『さかなキラキラ』こんなにステキな作品になりました。



短期入所・日中ショート

泉の家では昨年4月より、短期入所、日中ショート事業を行って
います。短期入所はもちろん、日
中ショートの高く、特に季
節休暇時や、学校が半休の日等は
すぐに定員が埋まってしまう。

開始した当初は、大きな宣伝も
していない事もあり、予約受付も
余裕がありました。しかし、法人
全体で取り組んでいる各施設職員
の対応が評判を呼び、徐々に口コ
ミで情報が広まり、予約受付日に
は電話が殺到：まだはいきません
が、早い時期に埋まるようになり
ました。

普段訪
れる事
少ない
児童が
来る事
により
、施設
の雰囲気
も変わ
りました。



4月20日、説明会・懇談会を実施しました

子供たちの笑い声や泣き声が施設中
に響き渡り、その度に作業中の利用
者の方々が笑顔がこぼれます。

「きつとお腹がすいてるんだ」
「寝起きかな?」「今日あの子来てる
んだね」など言葉が飛び交い、普段
ピリツとした作業場の雰囲気が一
変する事も。また、利用者の方々
と趣味が同じお子様も多く、本や、
DVD等お互いに貸しあったりな
ることもあります。「おじいちゃん
と孫(曾孫?)」位の年の差です
が、世代を超えた「友達」のよう
な感覚で接しているようです。

ご家族とは、このような事も連絡
帳などで情報の共有化をして、事
故、不備等を起こさないように努
めています。利用される方がある
程度固定されてきた現在では、嗜
好、行動パターン、身体機能等の
資料も整い、利用の際には各職員
で参考にできるようにしました。

職員数も減り、施設の老朽化な
ど決して事業に適しているとは言
えない環境で、ご希望をすべて満
たすことが難しいのが現状ですが、
利用する方々に少しでも満足して
いただけるように、これからも頑
張ってまいります。
(金子 誠)



初めての花見・芋煮会

3月29日(土)、日の出舎では花
見・芋煮会を行いました。あいにく
日の出舎の中庭にある桜は一部咲き
といたところでしたが…。今回は
芋煮を作る段階から利用者にも参加
してもらいました。慣れた手つきで
野菜を切っている人もいれば、なか
には普段包丁をもって料理をしたこ
とがないという方もおり、見ている
ほうはハラハラしていましたが、皆
さん楽しんで料理を行っているよう
でした。さて、皆で作った芋煮を食
べてみると? 大きい大根、小さい人
参、大小様々、いろいろな形の具が
たくさん

の、
それは
おいし
い芋煮
汁でし
た。ま
た有志
の方に
よる力



ボランティアさんと一緒にお肉を切っています

強い踊
りも披
露され、
みなさ
んな大
きな拍
手な拍
でこた
え、掛
け声を
し、踊
るほう
も見て
いるほうも一緒になって盛
り上がりました。美味しい食事の
あとには、楽しみにしている方も
多いカラオケを行い、熱が入って
何曲も歌う人もいれば、自分は歌
わないけれども楽しそうに聞いて
いる利用者もおり、皆それぞれの
楽しみ方で時間を過ごしているよ
うでした。そうこうしている間に
時間となり、利用者の皆さんにと
っては楽しく短い一日が終わった
といった感じの土曜日の夕方であ
りました。最後に、今回芋煮会の
企画、実施に協力してくださった
ボランティアさん、踊りをおどっ
てくださった皆様に感謝します。
ありがとうございました。
(原 昌吾)



迫力満点 よさこいソーラン



今回は、理容ボランティアの江口 勝基さんにお話を伺いました。

理容ボランティアをされるように
なったきっかけは?

福岡から上京して、昭和34年頃に
四ツ谷の理容会支部に登録しまし
た。そこで新宿にある東京都のセン
ターで障がい者の方々への理容ボラ
ンティア活動を始めました。

その後、センターが建替えをする
ことになり、施設ボランティア活動
が始まりました。

その中でも泉の家へのボランティ
アを続けていただけましたか?

世田谷区内の施設に行き始め、泉
の家に都センターで交流のあった野
尻さんが入所しているという事を聞

きました。彼とはセンターでの活動
中、色々な話をして気が知れてい
たので、彼がいる事がきっかけにな
りました。
また、色々な所で活動を続けてい
くと、有料ボランティアの話しを持
ち掛けてくる施設もありました。当
時は障がい者に対する偏見の声もあ
り、活動する仲間達は徐々に減って
いってしまいました。
私はあくまでもボランティアとし
て活動したいという思いがありまし
た。表立ってという事ではなく「自
分にも何か出来ないか」という志で
やっていました。私の意とする形が
泉の家での活動でした。



長い付き合いの野尻さんと

40年以上も続ける事は大変だった と思いますが

実は、5年ほどたった時に、「今
日は疲れているから行きたくない」
「ボランティアだから断っても大丈
夫」と考えた事がありました。
そんなとき妻に「あなたが続けて
いる事は誰にでも出来る事ではな
い、自信を持ってやればいい」「待
ってくれている人がいる事は幸せな
事」という言葉をかけられました。
今までは自分のどこかに「休みの日
にわざわざ来て、やってあげている」
という驕りがあったと思いましたが、
どこかで障がい者を差別していたの
だと思っています。

妻の言葉を聞き「奉仕をしている」
という意識が消えました。自分の
「仕事」と思って活動する事により
「行きたくない。面倒くさい」など
全く考えなくなり、自分でも驚くほ
ど苦にならなくなりました。
毎回終わった後はすがすがしい気
持ちになります。自分でもこのよう
な事を続ける事が出来て幸せだと思
っています。

利用者の方々との何かエピソード
があれば
私は元々口が悪いので、職員や



40年間の話しは尽きませんでした

周りの人だと言いくらい様な事も平
気で言ってしまうています。利用者
の方々私の話を時には真剣に聞
き、受け入れてくれていきます。
利用者の方との関わり全てが思い
出です。出会いも別れもたくさん経
験しました。そんな中、自分自身も
成長していったのだと思っていま
す。

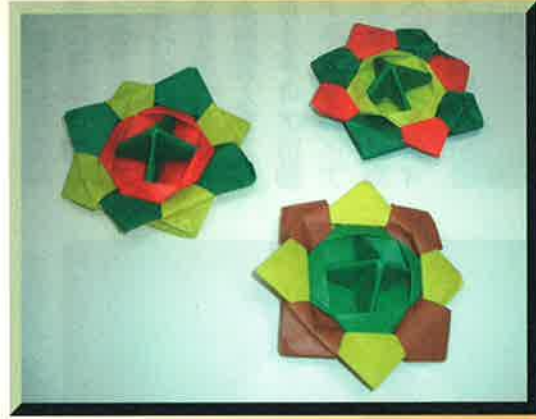
泉の家建替え後も、協力できる事
があれば是非声を掛けてください。

長い間ボランティアを続けてくだ
さりありがとうございます。江口
さんのアドバイスは、自立に繋が
った野尻さんを始め、利用者の方
々にとって貴重なものであった
と思います。
(福田 公英)

一九七七年十二月三日第三種郵便物認可(毎月一、二、三、五、六、七の日十八回発行)
二〇〇八年五月十一日発行(SKKP増刊通巻三八二二号)



宮原 三郎 「梱包材で作った冠」



沖倉 仁 「折り紙で作った花」



師井 君江
「手編みマフラー」

発行所 障害者団体定期刊行物協会 頒価五十円
編集人 東京都世田谷区砧六の二六の二二
社会福祉法人 泉会

製品紹介

岡本ホーム

岡本ホーム自慢の製品、コーヒー・ピスタチオなど、ご予算に合わせて
詰め合わせします。ご贈答にいかがですか？
地方発送も承ります(送料実費申し受けます)



TEL 03-3415-3366
FAX 03-3415-4976
E-mail : okamoto@izumikai.jp

信頼と希望に支えられて

保坂 俊晴

社会福祉法人泉会の経営理念は、「わたしたちは、信頼と希望と愛の輪で社会をつなぎます。」です。

2002年6月29日理事・評議員会で承認を得ました。同時に基本方針も作成し承認されました。

経営理念や基本方針の作成では、コンサルタントの力をかりながら検討しました。その検討会で、先達が行ってきた活動や精神を再確認しました。わが身を投じて御尽力いただいた、羽山和江氏・浅野順一牧師・押川一郎氏・上遠章氏・北村徳太郎氏・河合はな氏・遊佐敏彦氏など多くの方々が1953年から活動を続け、戦傷元軍人のための「大蔵身体障害者更生相談所」を発足させ、泉会の発足・泉の家の開所・1957年11月に社会福祉法人泉会設立認可と進んできました。

当時は終戦後8年目のことで、まだまだ社会情勢も不安定の時代に、この様な活動を続けてこられたこと敬服いたします。



泉会初期の理事達

その活動を続ける精神を支えたのは、泉会が今でも大切にしている「基督教の精神」でした。羽山氏は、資金集めのために募金活動や街頭募金も積極的に進めていました。有志の協力、会社からの寄付、世田谷区の地元有志の方々が、「泉の家地元後援会」を組織し資金の援助をしていただきました。多くの方々の支援を受け、泉の家建設資金を工面していただきました。また、国際キリスト奉仕団による援助金を受けて運営を行っていました。当時、職員給与はゼロの時もあったようでした。

今、機関紙でもお知らせをしている事ですが、44年が経過した泉の家を建替えるための計画を進めています。平成20年度の国庫補助を受けるため申請書を作成し協議書の提出を行いました。当時とは比べ物にならない位に制度や助成などが整っている状況である中ですが、現在の建物を解体し新たな泉の家を建築することは、様々な困難な状況があります。資金計画では、国や東京都・世田谷区からの補助がありますが、自己資金も必要になります。福祉医療機構からの借入や法人や泉の家の施設整備積立金などを使い、どうにか計画が立てられました。しかし、計画が無いところでの支出が見込まれている状況があります。施設を建替える事業は、職員の力をあわせ、法人の力をあわせ、基督教の精神を大切にすることで、多くの方々からご支援をいただけることに繋がると信じています。先達達が築き上げた社会福祉法人泉会、泉の家を益々発展をさせていけるように活動を続けていきますので、どうかご支援をお願い申し上げます。この場をお借りして、改めてお願い申し上げます。

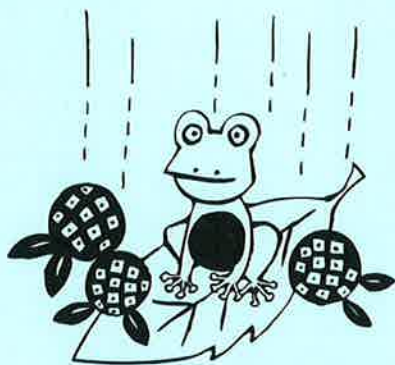
【お知らせ】

2008年7月26日(土)

午前10時から、泉の家の感謝祭を行います。当日は、岡本福祉作業ホーム、同玉堤分場との合同でイベントを開催します。泉の家の解体前に今までの感謝を込めて実施します。是非とも参加ください。また、当日に伺っていただける方、当時のお話しなどをしていただける方が居らっしゃいましたらお知らせください。

|| 友の会と共済で

実施いたします。||



示される確かな御心!

法人創設から54年、数え切れな
い多くの方々、全国の教会のみな
さまから支えられて、社会福祉法
人泉会は今日まで続いてきていま
す。

この機関紙をご覧いただいでい
る皆さまに、何よりも感謝をもつ
てご報告しなければなりません。

この2月定例のいづみ友の会役
員会を開催し、07年度全国の皆さ
まから世情厳しい中、「年金生活で
苦しい中、爪のさきに火を灯す」
ように、尊いお気持ちで寄せられ
ていることを感謝し、前年度額に
は達しませんでしたが、法人へ寄
付することを確認しました。

ところがどうでしょう、3月泉の
家建て替え整備へ向けて歩み出し
たことを知った方々から、次々と
ご厚志が届けられ、3月末には前
年度額並みに、その後もお気持ち
が寄せられています。

ますます、今始まるうとしてい
る「泉の家」建て替え整備事業が、
神様の事業として祝福されている
ことを覚えます。

「85歳、年金生活のため今回
が最後の協力です。」「○○(様)、
父は昨年11月他界しました。機関
誌の送付を止めてください。」「年

金を頼りの老夫婦故、協力困難と
なりました。」機関紙発行の度、こ
のような申し出が十数件、多いと
きは二十件を超えることもありま
す。ぎりぎりのできる限りの支援
を続けてくださった方の、一人又
一人と退会の申し出に接する毎に、
こんなにも長く、限界に達するま
で、私たちの法人を支えてくださ
った姿に、心よりの感謝を込めて
手を合わせ、神様のご恩寵に感謝
しています。

法人の長年の念願が、幻が現実
になろうとしているわけですから、
私たちを支えてくださる心強い大
きな支援も、喉から手が出るほど
願っていますが、これまでも支え
てくださった方々のように、障が
い者の福祉を前進させようとして
いる法人事業をご理解いただき、
それぞれのお立場でできるご支援
が大切であると考えています。

ご支援の輪が広がることで、障
がい者の方たちが共に生きていく
社会を実現していくことであると
考えています。

どうぞこの機関紙をご覧いただ
いている方の一層のご支援をお願
い申し上げますと共に、皆さまのお
仲間でご賛同してご支援いただけ
る方の紹介をお願い申し上げます。
ご紹介カードに、一人でも多くの
ご紹介いただける方をご記入の上、
事務局宛封筒にてお寄せください。

いづみ友の会2007年度寄付金実績(昨年との比較)

